

金沢翔子さんチャリティー書展

力強い作品並ぶ

きょうから大仏殿西回廊で

「ダウン症の書家」として知られる金沢翔子さん(30)のチャリティー書展(社会福祉)

法人こぶしの会チャリティー絵画展実行委員会主催、奈良新聞社など後援)が、きょう日

日、奈良市雑司町の東大寺大仏殿西回廊で開催する。前日の10日、関係者を招いて内覧会が行われた。

金沢さんは5歳から書道を始め、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字を揮毫(きぎょう)するなど多方面で活躍している。東大寺での展覧会は3回目。

今回は、力強い大字作品「東大寺」など新作を含む約80点を出品。会場には常時約40点を展示する。また、

難読症の英国人書家マツケンシー・ソープ、やなせたかし、平山郁夫、東山昭美などの絵画作品約60点も合わせて公開。各作品は即売され、収益は「こぶしの会」が新設する障害者の生活支援拠点の建設資金や、日本ユネスコ委員会連環の活動に寄付される。

内覧会の開会セレモニーで同会の藤井正紀理事長は「世界遺産の東大寺で展覧会を開催していたら、本当に幸せとあいたさつした。13日まで、午前9時から午後5時開場。入場無料(大仏殿入堂料が必要)。

問い合わせは同会、電話0742(63)6765。



力強い作品が並ぶ書展。10日、奈良市雑司町の東大寺大仏殿西回廊